

## 簿記3級検定試験 問5想定問題④『財務諸表』

決算整理前合計残高試算表から決算整理仕訳を処理し、貸借対照表・損益計算書を作成しなさい。  
平成10年04月01日から平成11年03月31日までの1年間とする。

### 資料①

決算整理前合計残高試算表

平成11年3月31日

残高	合計	勘定科目	合計	残高
1,900	31,900	現金	30,000	
	20	現金過不足	100	80
2,000	21,500	当座預金	19,500	
3,000	13,000	売掛金	10,000	
2,500	6,500	受取手形	4,000	
1,500	1,500	売買目的有価証券		
200	200	仮払金		
2,100	2,100	繰越商品		
20,000	20,000	建物		
5,000	5,000	備品		
	5,000	支払手形	6,550	1,550
	2,700	買掛金	4,200	1,500
		借入金	5,000	5,000
		貸倒引当金	100	100
		建物減価償却累計額	6,000	6,000
		備品減価償却累計額	900	900
		資本金	20,000	20,000
		売上	45,000	45,000
		受取利息	300	300
		受取手数料	100	100
35,000	35,000	仕入		
5,000	5,000	給料		
720	720	支払保険料		
500	500	通信費		
310	310	支払家賃		
700	700	広告宣伝費		
100	100	支払利息		
80,530	151,750		151,750	80,530

### 資料②

- ① 期末商品棚卸高は3,500円である。売上原価の計算は、仕入の行で行う。
- ② 現金過不足は100円が受取手数料の記入漏れであり、残額は不明であった。
- ③ 受取手形および売掛金の期末残高に対して、差額補充法により2%の貸倒引当金を設定する。
- ④ 売買目的有価証券の期末評価額は1,800円である。
- ⑤ 建物および備品に対して定額法により減価償却を行う。  
耐用年数：建物40年 備品10年  
なお残存価額は建物、備品とともに取得原価の10%とする。
- ⑥ 保険料は平成10年12月01日に向こう1年分を支払ったものである。
- ⑦ 支払家賃は、平成11年3月16日に当月15日分の100円と来月分の210円を支払ったものである。
- ⑧ 受取利息の前受額は200円である。
- ⑨ 支払利息は借入金に対して年利率2%を平成10年9月30日に1年間前払いした金額である。
- ⑩ 仮払金のうち100円は通信費、残額は広告宣伝費の支払いにかかわるものである事が判明した。

解答用紙

貸借対照表

平成11年3月31日

勘定科目	金額	勘定科目	金額
現金		買掛金	
当座預金		支払手形	
売掛金		貸倒引当金	
受取手形		借入金	
売買目的有価証券		( )利息	
商品		建物減価償却累計額	
建物		備品減価償却累計額	
備品		資本金	
前払( )			
前払( )			
前払( )			

損益計算書

平成11年3月31日

勘定科目	金額	勘定科目	金額
売上原価		売上高	
給料		受取利息	
支払保険料		受取手数料	
通信費		有価証券評価( )	
支払家賃			
広告宣伝費			
支払利息			
貸倒引当金( )			
減価償却費			
雑( )			

解答

貸借対照表

平成11年3月31日

勘定科目	金額	勘定科目	金額
現金	1,900	買掛金	1,500
当座預金	2,000	支払手形	1,550
売掛金	3,000	貸倒引当金	110
受取手形	2,500	借入金	5,000
売買目的有価証券	1,800	(前受)利息	200
商品	3,500	建物減価償却累計額	6,450
建物	20,000	備品減価償却累計額	1,350
備品	5,000	資本金	20,000
前払(保険料)	480	当期純利益	4,280
前払(家賃)	210		
前払(利息)	50		
	40,440		40,440

損益計算書

平成11年3月31日

勘定科目	金額	勘定科目	金額
売上原価	33,600	売上高	45,000
給料	5,000	受取利息	100
支払保険料	240	受取手数料	200
通信費	600	有価証券評価(益)	300
支払家賃	100		
広告宣伝費	800		
支払利息	50		
貸倒引当金(繰入)	10		
減価償却費	900		
雑(損)	20		
当期純利益	4,280		
	45,600		45,600

## 解答仕訳

No	借方科目	金額	貸方科目	金額
①	仕入	2,100	繰越商品	2,100
	繰越商品	3,500	仕入	3,500
②	現金過不足	100	受取手数料	100
	雑損	20	現金過不足	20
③	貸倒引当金繰入	10	貸倒引当金	10
④	売買目的有価証券	300	有価証券評価益	300
⑤	減価償却費	900	建物減価償却累計額	450
			備品減価償却累計額	450
⑥	前払保険料	480	支払保険料	480
⑦	前払家賃	210	支払家賃	210
⑧	受取利息	200	前受利息	200
⑨	前払利息	50	支払利息	50
⑩	通信費	100	仮払金	200
	広告宣伝費	100		
	借方合計	8,070	貸方合計	8,070

## 解答解説

- ① 期末商品棚卸高は3,500円である。売上原価の計算は、仕入勘定の行で行う。

試算表に表示されている繰越商品「2,100」は当期首における繰越商品金額です。つまり、前期末における繰越商品となります。前期末で残った商品は、今期に販売しますので、費用(仕入)になります。よって、以下の振替仕訳が必要となります。

仕入	2,100	繰越商品	2,100
----	-------	------	-------

それに対して今期末における商品残高は、今期の費用(仕入)にならず来期に持ち越されます。よって、以下の振替仕訳が必要となります。

繰越商品	3,500	仕入	3,500
------	-------	----	-------

- ② 現金過不足は100円が受取手数料の記入漏れであり、残額は不明であった。

受取手数料の記入漏れの仕訳を行う。

現金過不足	100	受取手数料	100
-------	-----	-------	-----

試算表に表記されている金額は80円のため、現金過不足は貸方80円から借方20円となる。不明の現金過不足が借方に20円となるため、雑損で処理する。

雑損	20	現金過不足	20
----	----	-------	----

③ 受取手形および売掛金の期末残高に対して、差額補充法により2%の貸倒引当金を設定する。

修正仕訳で売掛金および受取手形に変動がないので、試算表の金額に2%を計算して設定する。

売掛金3,000円 + 受取手形2,500円 = 5,500

$5,500 \times 2\% = 110$

貸倒引当金額は110円となり、試算表の金額より不足している分を計上する。

貸倒引当金繰入	10	貸倒引当金	10
---------	----	-------	----

④ 売買目的有価証券の期末評価額は1,800円である。

試算表の表記額1,500円に比べ300円評価額が増えているため、収益が発生している仕訳をする。

売買目的有価証券	300	有価証券評価益	300
----------	-----	---------	-----

⑤ 建物および備品に対して定額法により減価償却を行う。

耐用年数：建物40年 備品10年

なお残存価額は建物、備品とともに取得原価の10%とする。

建物： $20,000$ （取得原価） $\times 0.9$ （残存価格を引いた金額） $\div 40$ 年（耐用年数） $= 450$ 円

備品： $5,000$ （取得原価） $\times 0.9$ （残存価格を引いた金額） $\div 10$ 年（耐用年数） $= 450$ 円

減価償却費	900	建物減価償却累計額	450
		備品減価償却累計額	450

⑥ 保険料は平成10年12月01日に向こう1年分を支払ったものである。

今期分の保険料は12,1,2,3の4ヶ月分で、8ヶ月分は来期の保険料となる。

$720$ 円  $\times 8$ （来期月数） $\div 12$ （一年） $= 480$ 円（来期分の保険料）

来期分の保険料を前払いしているため、科目は「前払保険料」

前払保険料	480	支払保険料	480
-------	-----	-------	-----

- ⑦ 支払家賃は、平成11年3月16日に当月15日分の100円と来月分の210円を支払ったものである。

来月分の家賃は来期分の家賃となる。  
来期分の家賃を前払いしているので、科目は「前払家賃」

前払家賃	210	支払家賃	210
------	-----	------	-----

- ⑧ 受取利息の前受額は200円である。

今期の受取利息ではなく、来期のものであるため、収益を減らす仕訳を行う。

受取利息	200	前受利息	200
------	-----	------	-----

- ⑨ 支払利息は借入金に対して年利率2%を平成10年9月30日に1年間前払いした金額である。

今期分の支払利息は6ヶ月分で、半分の6ヶ月は来期分の支払利息となります。  
 $500円 \times 6(\text{来期月数}) \div 12(\text{一年}) = 250円(\text{来期分の利息})$   
来期分の支払利息を前払いしているので、科目は「前払利息」

前払利息	50	支払利息	50
------	----	------	----

- ⑩ 仮払金のうち100円は通信費、残額は広告宣伝費の支払いにかかわるものである事が判明した。

仮払金の内訳がわかったので、それぞれの費目で仕訳を行う。

通信費	100	仮払金	200
広告宣伝費	100		